

# 米沢興讓館同窓会会報

## 第44号

発行／平成27年8月1日  
米沢興讓館同窓会  
会報 編集委員会  
当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏(昭和28年卒)の揮毫によるものです。



上杉鷹山公が終生師事された興讓館の名づけ親でもある細井平洲先生三度目の米沢訪問の際、関根の羽黒堂まで出迎えられ、感動の対面をなされました。早速鷹山公は名刹普門院にご案内し、69歳の恩師の労を慰めました。このたび対面された場面を表現した「敬師の像」が、ゆかりの地、普門院境内に建立されました。米沢市と姉妹都市である東海市の平洲会から寄贈された像です。(写真提供: 普門院)

### 「集」 つなぐ伝統 つなぐ想い



平成二十七年 同窓会・懇親会  
実行委員長 **海老名 悟**  
(昭和五十五年卒)

創立一二九年を迎える今年には、創立記念日でもある九月十九日(土)に米沢興讓館同窓会総会・大懇親会を開催いたします。今年度は「集(つどう)」つなぐ伝統 つなぐ想い をテーマに昭和五十五年を筆頭に五十九年、平成元年、七年、十二年、十七年卒が実行委員を務めさせていただきます。ご覧のとおり昭和卒よりも平成卒が多い実行委員会となりましたが、平成十七年卒が考案したテーマに基づき、同窓生が世代を越えて興讓館の伝統と想いをつなぎ、一堂に集う同窓会・大懇親会にしたいと思っております。

来年は創立百三十年という節目の年になりますが、その前年を受け持つ我々実行委員は、「連綿つきぬ興讓の流れ」をつなぐために今年度の同窓会・大懇親会の成功を目指して取り組んでおります。

今年秋のシルバークウィークといわれる大型連休の初日に開催されますので、ひとりでも多くの同窓生にお集まりいただきますよう心よりお願い申し上げます。



# 平成二十七年 同窓会総会にあたって

米沢興讓館高等学校同窓会

会長 大友恒則

日頃、会員の皆様には本  
会活動にご理解とご協力を  
頂き、心より御礼申し上げま  
す。また、各支部長各位のご  
配慮に感謝申し上げます。

今年の興讓館同窓会総会、  
及び大懇親会は、昭和五十五  
年卒の海老名悟氏を実行委  
員長に六学年の皆様の実務  
によって開催されます。

主催テーマを「集」つな  
ぐ伝統 つなぐ想いと定  
めました。本校の長きに渡る  
伝統に思いを寄せ、未来を考  
える意を表現したと言われ  
ています。私は、「時」を得  
たテーマと感じいつており  
ます。このテーマに感謝の意  
を表し、本日の総会、懇親会  
の成功を確信しております。  
さて、本校は明年、明治  
十九年の学制改定から数え  
て百三十年の節目を迎えま  
す。さらに、本校が南原の地

に移転し、その準備から数え  
て三十年目を迎える年とな  
ります。百周年事業から三十  
年、社会構造の大きな変化を  
迎えております。昭和二十年

から五十年後半期まで拡大  
基調であった社会趨勢から  
少子化に起因する縮小趨勢  
への転換です。そして今、小・  
中・高・大学と学校教育環境

の変化にどう対応すべきか  
が問われております。我が母  
校は山形県南部地域におけ  
る中核的教育機関として長  
く、その使命を担ってきまし  
た。今後もその立場を堅持す  
ることが求められると思ひ  
ます。その為に、われわれ同  
窓会員はどんな支援が必要  
となるのか、また、できるの  
かを考える機会として、明年  
の百三十年周年事業を行ない  
たいと思ひます。  
現在の教育環境の変化を

考える「時」本校の将来に一  
抹の不安を覚える昨今であ  
るからこそ、会員諸兄のご理  
解とご協力を再度お願いい  
たします。

最後に改めて、今年度の実  
行委員会の皆様にご感謝申し  
上げ、さらに会員諸兄のご健  
勝をご祈念いたします。

## 第二回 全国支部長会開催

昨年の同窓会総会・懇親会  
に先立ち、第二回同窓会全国  
支部長会がもたれた。会議に  
は神野東京支部長、御供(宮  
城)・後藤(山形)、松下(長  
井・西置賜)そして地元米沢  
から早川支部長の五名と本  
部から十二名の役員が参加。  
大友会長の歓迎の挨拶、参  
加者の自己紹介に続き各支  
部からの活動報告と共に、各

支部がかかえる様々な課題  
をあげてもらった。

東京支部の場合、例年七月  
に予定される総会・懇親会へ  
の案内は約八百名。参加に関  
しては学年による温度差が  
あること。毎年担当学年が魅  
力ある内容作りに努力され  
ている。特筆すべきは同郷の  
絆を大切にすべく、置賜の他  
の高校出身の支部長にも参  
加を呼びかけているとの事。

宮城支部の場合は、岩手、  
福島など近県からの参加も  
ある。

山形支部は年四回の集い  
を実施している。

各支部から若い世代の参  
加の伸びに向けての提言が  
多く出された。

その他、同窓会名簿発行に  
関しては、出席された支部長  
全員「同窓会名簿は作った方  
がよい」という意見でした。  
参加者が各支部長様のご  
苦勞、喜びなどを共有し、各  
支部の更なる充実や結束を  
希い、盛会裡に終了しました。  
(事務局)

## 米沢興讓館同窓会

平成二十七年

### 総会・大懇親会ご案内

- 一、日時 平成二十七年九月十九日(土曜日)
- 一、会場 グランドホクヨウ(市内金池二丁目)
- 一、日程 ①総会 午後四時～
- ②大懇親会 午後六時～

米沢興讓館同窓会会長

大友恒則

平成二十七年同窓会・懇親会実行委員長

海老名悟

(昭和五十五年卒)



ごあいさし

校長 岸 順一

同窓会の皆様には、常日頃より本校教育活動にご理解・ご支援を賜り心から御礼申し上げます。今年度の人事異動で長井高等学校から赴任致しました。輝かしい歴史と伝統を誇る母校米沢興讓館高等学校に奉職させて頂くことに大きな喜びと責任の重さを感じています。

また同窓会の皆様には大変温かく迎えて頂き感謝申し上げます。これまで、米沢支部の観桜会や関西・東京・県庁教育庁各支部の総会・懇親会に参加させて頂き、本部役員の方々はじめ、皆様の母校愛の強さに心打たれました。皆様の強い絆が母校を支える大きな力となり、惜しみないご支援を頂いていることに改めて深く感謝申し上げます。同窓会総会や今後お伺いする支部総会等で多くの同窓生の皆様とお会いできることを心待ちにしております。さて、四月、新たに二百名

の入学生を迎え平成二十七年がスタートし、生徒たちは本校の伝統である文武両道に励んでいます。本校は以前より難関国・私立大学をはじめ高い進学実績を誇り、現在も県教委から進学重点校の指定を受けて生徒の進路第一希望実現を期した教育活動を展開しております。部活動においても、生徒は限られた時間ながら工夫を凝らして集中した練習を行い、例年多くの部が地区大会を勝ち抜き、県大会や東北大会に出場してきました。昨年はインターハイでフェンシング女子が全国五位となり、今年度もフェンシング部と水泳部がインターハイ出場を果たし、陸上部も東北総体個人一位を獲得しました。

本校は四年前に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、山形大学工学部をはじめめとする高等教育機関の全面的な協力のもと、先端科学研究に触れて体験的・課題解決的な学習に取り組むことにより科学的思考力を伸ばす取り組みを実施してきました。その成果の一つとして、昨年度、「科学の甲子園山形県大会」において、本校生が他校に大差をつけて優勝し全国大会出場を果たしました。また、SSH国際交流として理数科生が二カ年訪問してきた国立台湾師範大学附属高級中学と姉妹校提携を結び、この七月には姉妹校生二十五名が本校を訪れました。その際、山大工学部で行ったサイエンスフォーラムに姉妹校生も参加し、本校生や山大工学部留學生とともに英語で互いの研究成果を発表し科学的交流を深めています。

急激なグローバル化、情報化、技術革新という変化の激しい社会で、今後、生徒たちは高度化・複雑化する諸課題に対応できる汎用的能力が求められ、世界中の異なった文化的背景を持つ人と協力して課題を解決しなければならぬと言われています。そのような力をつけるのがSSHの取り組みです。SSH事業は生徒の主体的な学習を促進し、本校の活性化にも繋がっており、今後もこの取り組みを充実していきたいと考えております。

本校の長い歴史の中で、多くの卒業生が社会で優れた業績を残されてきました。現在も国内外・地域社会において各分野の中心となって活躍されている同窓の方々が大勢います。校長室には、我妻榮先生はじめ伊東忠太先生や高橋里美先生、浜田廣介先生といった学問の泰斗や偉大な同窓生の写真が飾られています。

が、資料室の展示物からもその時代の難問解決に向け尽力された人物を本校がいかに多く輩出してきたか知ることができます。

来年本校は創立百三十周年を迎えますが、これまで連続と受け継がれてきた「自他の生命を尊重し、己を磨き、世のためにつくさん」という興讓の精神を生徒に伝え、剛毅・進取の気風を継承しながら、これら偉大な卒業生に続く、時代をリードし社会に寄与する人材育成に取り組んで参ります。同窓生の皆様が一層誇れる学校づくりを目指し全力で努力することをお誓い申し上げます。

米沢興讓館高等学校 創立記念式典・記念講演

- 一、日時 平成二十七年九月十九日(土曜日)
- 一、会場 興讓館高校 記念講堂
- 一、日程 ①記念式典 ②記念講演 午前十時二十分～ 十一時五十分

講師 小嶋 彌左衛門 (昭和四十二年卒 小嶋総本店代表取締役)

## ライトアップされた大坂城を眼下に 関西支部総会に参加して

同窓会副会長 小林 壙 二

私は関西支部総会に参加させて頂くにあたって、嘗て「支部便り」に紹介された記事を読ませてもらった。

「関西支部は、母校から最も遠い支部かもしれません。支部規約では、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山の近畿六府県がエリアですが、関西以西に支部がないので、北九州や広島から参加される方もいます。西日本支部とまでは言えませんが、米沢から遠くはなれているからこそ懐かしいのだと思います。」

さて、心待ちしていた五月三十日(土)、第三十二回関西支部総会が大阪・松下IMPビル26Fレストランで開催されました。会長用事の為、岸校長・益子常任理事と出席しました。ライトアップされた大坂城が眼下に映えて最高の雰囲気の中、物故者への黙祷から進みました。三重・岐阜・福井から九州までの在住者をカバーして入会と参加を呼びかけ、今回は百八十名に案内状を出さ

れたとの事です。吉田真会長さん他執行部の方々のご努力に敬意を表します。支部活動の歴史は昭五十八・北京での設立総会以降毎年講演と懇親で絆を深めて来られました。今回は昭二十八卒から平五卒まで三十三名出席で、活動と決算報告の後、佐藤和栄氏(四十二卒・現パナソニックで光ディスク開発、スピーカー研究、工学博士)の「音あれこれ」を拝聴しました。相当に専門的内容を含む講演でした。皆さんお元気で懇親会は夜景の良さとプロ級手品の出し物ありで大いに盛り上がりました。

岸学校長が学校の現況報告と遠慮がちにお願いした体育文化後援会への協賛にも皆さんすばやく応じて下さいました。四・五分移動しての二次会もほとんどの方が参加(恒例)して楽しく、来年も会おうと約束しておられました。関西支部様の今後一層のご発展をお祈り申し上げます。

## 激動の時期に

### 米沢興讓館で学んだ仲間の絆

いつまでも



青柳 忠 良(新緑会)

私たちは戦中・戦後の激動の時期に興讓館で学び、昭和二十四・五年に卒業しました。同期の誰にとっても忘れられない年月でしたから、つながりは強かったと思います。新緑会という同期の会は、八十歳が近づいたころは毎年集まっています。東京近辺の諸兄はその他にもさまざまな催しを企画し、そしてそこには在学当時若い音楽教師だった滝沢美恵子先生も参加してくださいました。激動の時代を生きた年長の仲間でしたからね。地元米沢では有志による「夢遊会」が毎月開かれ、その人たちが新緑会の幹部を務め、東京の諸兄の協力を得ながらも、皆が八十歳に達するにお

よび、会としての活動は休止しました。今ではリーダーを含め半数に近い方々が鬼籍に入られました。毎月集まり続けています。あと十年頑張れるといいのですがね。今までの幹部諸兄のご尽力への恩返しとして、できる間は連絡係を務めていくつもりです。



高校第2回卒業生(昭和25年3月)学制改革で6年間この校舎に学ぶ

興讓館同窓会をきっかけに・・・



本多 作之助  
(平成七年卒業)

平成七年卒業の同級生と同窓会をしたのは二十五歳の時でした。それ以来、同窓生と一同に会える機会はほとんど無く過ごしていました。転機は五年前、同窓会の幹事学年になったことです。

どうやら『幹事学年は多くの人数を集めなくてはならない』という使命があるようなので、これはちょっと頑張ってみようと思いました。

さっそくその時の興讓館の先生として活躍していた岡村悦男君に相談し、一緒に幹事を引き受けてもらいました。そして当日までに二十名ほどの同窓生と出会うことができました。

その時の二次会は大変盛り上がり、また五年後に会う約束を交わし(参加できるものは毎年お祝いし)その時は分かれました。

その時に話題が上がったことはもちろん同窓生の話、先生の話、当時の出来事など・・・一瞬にして学生時代に戻れる感覚がなんとも言えませんでし

た。きつと、この「大同窓会」に集う諸先輩方はこの感覚が味わえる空間に引き寄せられるのだろう、と私たちは口々に言い合いました。

今年はいよいよ幹事学年です。さすがに二回目ともなれば、準備は一年前から始まります。昨年の同窓会に多めに集まってもらいました。今年に向けて予告編という感じでしょうか。

四十歳を前にした私たちの学年の話題は結婚生活、子育て、仕事、そしてやはり同窓生の動向です。人生の重要な時期に多くを語り合う仲間と出会う機会をいただいていると思っています。今年はいよいよ多くの同窓生と会話の中で『学生時代』と『現代』を行き来しながらも旧交を温める、そんな特別な集まりにしていきたいと思えます。

これから先も、同窓会という機会から新しい友情が生まれていければ最高ですね。

『米沢興讓館 部活のあゆみ』



編集委員会 主幹 鈴木 基  
(昭和四十九年卒)

『米沢興讓館 部活の歩み』今秋発行予定!!

興讓館のクラブの活動状況が集約されている資料には、新聞「興讓」、学校雑誌「興讓」、そして「体育文化後援会会報」などがある。記録として残っている結果は、一人一人の生徒が汗をかき、涙し頑張った証である。戦後七十年間のそれらの資料に目を通してみると興讓館の名を背負い、燃えた青春時代の感動が伝わってくる。また、多くの

学年が記念誌を発行している。記録としての結果からは窺い知ることのできない、その時代の様子や背景など興讓館生活の思い出を載せている。多くの資料をもとに、限られたページではあるが、興讓館で過ごした青春の思い出をひとつでも多く伝えたい、そして読んで楽しい「歩

み」にしたいという思いで編集に当たっている。

『米沢興讓館 部活の歩み』は興讓館の歴史そのものである。是非多くの方に読んでいただきたい。発行は今秋の予定である。定価二、〇〇〇円で販売予定である。



野球の黄金時代 (昭和28年県大会優勝の時)

◎平成25年度 同窓会会計決算書

(会計年度 平成25年9月1日～平成26年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	収入額	増減(△)	備考
繰越金	899,196	899,196	0	前年度繰越金
入会金	1,365,000	1,365,000	0	7,000円×195名
年会費	2,300,000	1,400,000	△ 900,000	
過年度会費	0	250,000	250,000	昭和48年卒、昭和54年卒、昭和55年卒
雑収入	1,804	1,357	△ 447	預金利子
計	4,566,000	3,915,553	△ 650,447	

決算額

収入済額 3,915,553円 - 支出済額 2,762,209円  
 = 残額 1,153,344円 (次年度へ繰越)

○資金の残高

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 1,153,344円

○財政安定積立金残高

= 同上 同上 500,197円

○前受会費残高

= 同上 同上 2,560,000円

支出の部

(単位：円)

項目	予算額	支出額	残 額	備考
運 営 費	1,160,000	1,075,353	84,647	
会 議 費	90,000	52,741	37,259	理事会等
通信連絡費	20,000	5,855	14,145	郵便切手等
需 用 費	120,000	91,361	28,639	印刷機マスターインク・用紙等
人 件 費	930,000	925,396	4,604	人件費会計へ繰出し
事 業 費	2,595,750	1,671,856	923,894	
一般事業費	2,000,000	1,107,481	892,519	各支部総会(旅費・お祝い)・高鍋高校交流事業・総会補助金・HP運営費・会報送料補助等
卒業記念費	250,000	218,625	31,375	記念品代(195名分)
表 彰 費	45,750	45,750	0	永年勤続者(3名)
会 報 費	300,000	300,000	0	会報 第43号 6,000部
予 備 費	810,250	15,000	795,250	
予 備 費	810,250	15,000	795,250	会報印刷費不足分
計	4,566,000	2,762,209	1,803,791	

◎平成26年度 事業計画

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| ①母校振興発展に必要な事業 | ③会報の発刊          |
| ②会員の親睦に関する事項  | ④その他、目的達成に必要な事項 |

◎平成26年度 同窓会会計予算書

(会計年度 平成26年9月1日～平成27年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減(△)	備考
繰越金	1,153,344	899,196	254,148	前年度繰越金
入会金	1,407,000	1,365,000	42,000	7,000円×201名
年会費	2,300,000	2,300,000	0	昭41年～平17年まで5万円(40学年) 昭31年～昭40年まで3万円(10学年)
雑収入	1,656	1,804	△ 148	預金利子
計	4,862,000	4,566,000	296,000	

前年度からの繰越額

○財政安定積立金

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 500,197円

○前受会費

= 同上 同上 2,560,000円

支出の部

(単位：円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
運 営 費	1,100,000	1,160,000	△ 60,000	
会 議 費	60,000	90,000	△ 30,000	理事会等の会議費
通信連絡費	10,000	20,000	△ 10,000	郵便切手等
需 用 費	100,000	120,000	△ 20,000	慶弔・事務用品
人 件 費	930,000	930,000	0	人件費880,000+50,000(9月手当)
事 業 費	2,012,604	2,595,750	△ 583,146	
一般事業費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	各支部総会、会報送料補助、HP運営費、総会補助金等
母校活動補助金	400,000	0	400,000	高鍋高校交流事業(訪問)
卒業記念費	282,204	250,000	32,204	記念品代(201名分)
表 彰 費	15,400	45,750	△ 30,350	永年勤続者(1名)
会 報 費	315,000	300,000	15,000	印刷費
予 備 費	1,749,396	810,250	939,146	
予 備 費	1,749,396	810,250	939,146	次期繰越金が多額になる場合には、財政安定積立金に振り替えることがある
計	4,862,000	4,566,000	296,000	

# 米沢興讓館同窓会支部役員

## ◎本部

〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101  
 米沢興讓館高校内 ☎0238-38-4741

会 長 大友 恒則  
 副 会 長 早川 正信 小林 擴二 中條 淳子  
 監 事 野口 義人 江部 寛 土田 一成  
 常務理事 遠藤 岩根  
 副常務理事 磯部 道昭  
 常任理事 平山孫兵衛 小嶋彌左衛門 佐野 隆一  
 鈴木 基 加藤 英樹 藤倉万里子  
 益子 光子 佐藤 詠一 安部 徳朗  
 佐藤 美洋

## ◇米沢支部

支 部 長 早川 正信  
 〒992-0054 山形県米沢市城西3-2-36  
 ☎0238-22-6780

副支部長 菅野 武巳  
 監 事 安達 治雄 安田 道隆  
 幹 事 長 相田 修一  
 事務局長 栗林 雄二

## ◇東京支部

支 部 長 神野 民夫  
 〒187-0025 東京都小平市津田町3-18-304  
 ☎042-312-3793

副支部長 吉田 仁志  
 幹 事 長 宮坂 孝夫

## ◇関西支部

支 部 長 吉田 真  
 〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町2-5  
 ☎075-721-1743

副支部長 佐藤 吉憲 山口 隆夫  
 幹 事 長 中川 勉  
 事務局長 福士 明博

## ◇宮城支部

支 部 長 御供 政敏  
 〒984-0828 宮城県仙台市若林区一本杉町24-2  
 ☎022-236-0627

副支部長 和田美知子 塚原 保夫 田林 暁一  
 事務局長 森下 和夫  
 安部 雅人

## ◇山形支部

支 部 長 堤 孝雄  
 〒990-2494 山形県山形市末広町9-8  
 ☎023-624-0466

副支部長 後藤 寛 竹田 篤永  
 幹 事 長 生亀 寿子  
 幹 事 高橋 宏一 横井 洋子 加藤 章  
 監 事 浅間 幸助  
 岩沼 甫 大内 勇

## ◇高島支部

支 部 長 登坂 捷一  
 〒992-0351 山形県東置賜郡高島町高島2152-23  
 ☎0238-52-0017

副支部長 梅津伊兵衛 星 寛治  
 幹 事 長 鈴木 征治  
 事務局長 金田 成康

## ◇赤湯支部

支 部 長 佐藤 有弘  
 〒999-2231 山形県南陽市二色根373  
 ☎0238-43-6660

副支部長 石岡 忠一 須藤 清市  
 事務局長 三ヶ山岩男

## ◇宮内支部

支 部 長 山水 克美  
 〒992-0472 山形県南陽市宮内3172  
 ☎0238-47-7055

副支部長 長谷川 剛 高岡 亮一  
 幹 事 長 樋口 一志

## ◇小国支部

支 部 長 高橋 清人  
 〒999-1353 山形県西置賜郡小国町大字兵庫館2-3-14  
 ☎0238-62-2714

副支部長 伊藤 通芳 小林新太郎  
 事務局長 高野 健人

## ◇長井・西置賜支部

支 部 長 松下 鈺三郎  
 〒993-0007 山形県長井市本町1-9-27-3  
 ☎0238-88-2538

副支部長 芳賀 康雄 後藤 博信  
 代表幹事 渡部 秀一  
 事務局長 斎藤 道郎

## ◇県庁・教育委員会支部

支 部 長 佐原 伸児  
 〒990-0021 山形県山形市小白川町5-22-6

副支部長 澤根 敏弘  
 幹 事 長 山川 秀秋

## ◇ニューヨーク支部

= First Over Sea's H・Q. North American Blanch =  
 New York office in U.S.A.  
 \*Director & Gen.Manager:EBE TAKASHI(1959 Grad)  
 AD:525 RIVERDALE AVE(Rm 5G)YONKERS N.Y  
 10705 U.S.A.  
 Phone : 1-914-963-1250(Answering24h working)  
 (FAX:also available)

## ◎校内同窓会役員

理 事 柿崎 悦子 竹田 靖  
 幹 事 山田 英樹 猪俣 幸一 船山 洋子

# SSHと大学入試改革

SSH事務局長 (SSH推進担当)

熊坂 克

平成十四年度 (SSH事業開始初年度)、文部科学省は全国二十六校をスーパー (SSH) として三年間の指定を行った。その中の一つであった本校は、学校設定教科「生涯学習」のカリキュラム開発や高等教育機関と連携した校外学習資源の有効活用法の開発、理工部の部活動支援、高大連携による教員の指導力向上、そして全教科による「科学する心」育成の取り組み等を展開してきた。

いわゆる学科試験による選抜に対応するための受験勉強と直接的に結びつきにくいこのような取り組みをしていく中で、大学の進学実績に悪い影響が出るのでは等の懸念がなかったわけではない。しかしながら、結果としては近年ないほど

の進学実績を第一期のSSH指定は残した。あれから七年が経過し、平成二十四年度より五年間、二期目のSSH指定を受けた。今年度は四年目ということである。この春の卒業生の進路先は結果として第一期のSSH指定時と同様、超難関大学・学部・学科の合格など、その進学実績は落ちることなく、むしろSSH主対象生徒の理数科が牽引する形となった。これらの結果を考察する際に「学びの本質」というものを再考する必要があるだろう。

的な知識と技能の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる」ことが目標とされている。この短い文章の中で「自ら」という言葉が二度もみられ、さらには「自発的」という「自ら」と同義の言葉も記載されている。所謂「主体的な学び」が強調されていることが窺える。

毎年恒例の風景となつていくが、理数科生徒は自分の達の研究が佳境に入ると、誰から強制されるわけではなく、放課後や土日に実験を進めたり、発表原稿をまとめたたりしている。これらの主体的な活動を通して、間違いなく専門的な知識と技能の深化、総合化が図られている。また、未知の事物・事象に対する問題解決能力だけでなく、発表をまとめる中で表現する力も育まれていることも間違いない。

SSHという制度が開始され、今年度で十四年目となる。当初、二十六校だった指定校は今では二〇〇校

を再考する必要があるだろう。

学習指導要領では理数教科・科目である「課題研究」について、「科学や数学に関する課題を生徒自らが設定し、自らその課題の解決を図る学習を通して、専門

を超えた。これまでのこの研究開発実績の裏付けにより打ち出されたものが平成三十二年度より実施される大学入試新テストである。また、平成二十七年五月の教育再生実行会議第七次提言においても「主体的に課題を発見し、解決に導く力」が、これからの時代に生きる人たちに必要とされる資質・能力として冒頭に挙げられている。SSH牽引役の本校理数科はこれらの変革の先頭を走ってきた。変化を恐れる必要はない。ただ、これまでの取り組みを早急に学校全体のものとする必要がある。それが喫緊の課題である。

公益財団法人 自願奨学財団からの御礼とお願ひ

当財団は、本校の大先輩、我妻榮先生が文化勲章受章を記念して設立されたもので、爾来、その趣旨に御賛同いただいた方々からのご支援も合わせ、経済的に恵まれない本校生徒に対する奨学金給与等の支援事業を継続してまいりました。

平成二十四年度に数多くの皆様より多大な浄財を賜った結果、原資不足を補うことができて昨年に引き続き今年度も目標としていた給与が可能となりました。心より御礼申し上げます。しかしながら、奨学金を希望する生徒は年々増えているのが実状です。

同窓生の皆様におかれましては、趣旨に御賛同いただけます場合には、本校事務室までご連絡をお願い申し上げます。

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）

（代表理事 岸 順一）



国立台湾師範大学附属高級中学と姉妹校締結